

平成26年第6回
上小阿仁村議会定例会
会 議 録

平成26年 9月 1日 (開会)

平成26年 9月11日 (閉会)

○議長（小林信） 次に7番 伊藤敏夫君の発言を許します。7番、伊藤敏夫君。

（7番 伊藤敏夫議員 一般質問席登壇）

○7番（伊藤敏夫） 私の質問は、村が活気づく将来に希望がもてる状況を得るため行動してみることの必要性を強く感じているからであります。

職場を誘致し雇用を確保して人口減少に歯止めをかけるというような大きなことではございません。身近なところの情報や希望を話しあえる機会づくりの提案こそが大事なことであると思うからであります。

そのような観点から、いろいろな情報を得ることができる関東かみこあに会との連携強化について質問させていただきます。

村出身の皆さんで設立されたかみこあに会は、関東地区、また県内では秋田地区、北秋田地区で開催されておるようでございますが、関東かみこあに会は昭和60年10月に設立されたものでございました。今年11月1日に行われることを聞きまして、今回は2年に一度、村からも関係者が参加して交流できる機会でございます。過去の実施状況は村で準備したキリタンポの提供や農産物の販売、郷土芸能披露など、村から出向いたスタッフとともに交流を図ってきた経緯であると思っております。

確かに、ふるさとを離れて都会で生活されている皆さんにとっては、懐かしさと安らぎを与えて、とても良い機会であることはいまでもございません。

このような交流会は、県内の市町村でも大半行われておりますが、交流のみならずせつかくの機会を更に進展させることができる場にして欲しいからであります。

我が村の現状は、人口減少や働く場の減少によって村の将来に不安を感じている方も多いと思っております。村から離れて行って都会で成功されている方も多くおられることを耳にしますが、そのような方々と村は積極的に話し合える機会をもつことによって、新しい進展が生まれるかもしれません。

ふるさとを離れた団塊世代以上の方は、すでに退職されているようでございまして、村に帰り生活したい思いの方もおられるでありましょう。そのような方には空き家情報も提供しながら、希望に添えるよう相談窓口となって欲しいわけでございます。

また、若い方であってもこの厳しい都会社会の中で、職を探しておられる方もいらっしゃると思います。村での公募情報も提供するなど、如何でしょうか。現に私の知っている中では、5人方が都会の方から田舎に帰られておまして、村に帰って生活し、のんびりと生活しながら花植えや、その鑑賞のほか野菜作りや山を歩いての山菜採りなどをしておるのだというようなお話も聞きました。また、グランドゴルフの仲間に入れていただき楽しんでやっているよと、帰っ

てきて良かった。同級生がいたがために大変助かっているのだと、こういうようなお話も伺っております。

また、村を心配してくれている皆さんから「ふるさと納税」として村への多額の寄付をしていただいています。かみこあに会の会員の皆さんの中からも寄付をいただいておりますが、村では、どんなお礼をされておるのでしょうか。

私がいう連携強化とは、村と関東かみこあに会の事務局とお互いの情報を交換しながら、今直面している諸課題を小さなものであっても形にできる方向に進んでもらいたいと思っておりますのでございます。

村長の考えは如何でしょうか、ご答弁をお願いします。

○議長（小林信） 村長、答弁の前に1つだけお願いがございます。質問に関しては明確に、適格に、問題点から離れた答弁となりませんように、そして、そちらの方で時間を費やさないような答弁をしていただきたいと思いますので、どうか、ご協力のほどお願いいたします。はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 伊藤議員の関東かみこあに会との連携強化についてということで、村を離れた方々との、せっかくのかみこあに会ですので、意見交換とか、それからまた、ふるさと納税についてのご質問であったと理解しています。

2年の1度の関東かみこあに会が、11月1日、午後1時から東京マリアージュで開催する旨のご案内を8月14日に古性会長さんからいただいております。

当初、予算説明でもさせていただきましたが、議員全員の参加をお願いいたします。

この会は、昭和60年11月にふるさとの上小阿仁村を離れ、首都圏近郊に居住、就業する上小阿仁村出身の人達と、村の相互の親睦と交流を深め、ふるさとの発展に貢献するために設立されたものであります。

会では、上小阿仁村に帰って来ていただく、「帰ろう会」の促進やふるさと納税の促進、村物産品の普及や宣伝、企業誘致の斡旋など、村への支援などを協議していただいております。

会員にとっては、少年、少女時代をすごした懐かしい場所であり、村として帰って気安い情報等を収集させていただきながら対応策を検討していきたいと考えております。

小田瀬にあります日本機械株式会社についても、この会が縁で工場を誘致していただいた経緯がございますので、このかみこあに会を貴重な人脈との会と位置付け、ぜひ多くの方に来ていただき、ふるさと上小阿仁村への思いを聞いて、今後の交流の参考にしてまいりたいと思っております。できれば、東京に行った時に幹部の方々とでも話し合いの場が、30分でも1時間でも持てれば、

それをやりたいなと思っております。

会の中では、2年前にも行った時に各会員の方々と、皆さん方もいろんな要望、また、お話し合いの中でこんなことがあればいいのになというふうな要望も聞いてきていると思います。そういったものも、できれば、このふるさとづくりと上小阿仁村の施策の中で取り入れられるように提言等いただければありがたいなと思っております。

ふるさと納税につきましては、平成25年度においては、かみこあに会の10人の方より56万7,000円という多額の寄付をいただいております。

い樹い樹むらづくり活動補助金として、要望のあった集落の環境整備活動の財源として活用させていただいております。また基金として積み立てており、418万9,000円となっております。納税者の貴重な好意を大切に、今後も集落の要望に答えられるようにしてまいりたいと思っております。

お礼については、ご寄附を頂いた方々には礼状とミニ要覧を送付させていただいております。最近、市町村においては特産品の品物をお礼に送付しているところもありますが、税制上の寄付の殆どか免除されることもあり、村では本来の目的のふるさと応援の真心を尊重することとさせていただいておりますので、ご理解をお願いしたいなと思っております。

以上でございます。

○議長（小林信） はい、7番、伊藤敏夫君。

○7番（伊藤敏夫） 答弁、誠にありがとうございます。

もっと悲観的な答弁と思って、いろいろ次の質問について考えではあったのですが、前向きな答弁をいただきましてありがとうございます。

いずれにいたしましても、この帰ってきたい人も多分おられるだろうと、私は感じております。それから、若い人にとっても都会の中でいろんな職を探しながら、どうすればいいのか迷っている方々もおられるのではないかなというふうにも思っております。そういう方々に、やはり、上小阿仁はせつかくの機会ですから行った段階においては、村ではこのような職員も募集しているし、職もあるのだというようなことを資料でも、言葉でも結構なのですけれども、そういうようなことを情報として流してやるというようなことも必要ではないのかなと感じておるところでございます。

それと、先ほどふるさと納税の件でございますけれども、チョット私もインターネットで、いろいろ秋田県内の市町村の内容を調べてみました。県内の中においては、大館市のふるさと納税に対する対応といいますか、そういうようなものについては1番いいなと。次は秋田市なのかなと思いますが、上小阿仁村について見てみますと、インターネットの中においては特産品ありとか、あるいは使い道を調べるとか。クレジット対応とか、災害救助法を適用地域とかと

いうところのものに囲まれているのがありまして、その数が多いのが大館市なのだと思いました。

上小阿仁村については、使い道を調べるというところにだけ厚くマルがついておりまして、チョットどのようにになっているのかなというふうな感じておったわけでございます。確かに、そのふるさと納税というのは7段階にわかれておるようございまして、2,000円から5,000円未満、それから5,000円から1万円未満、1万円から3万円未満。3万円から5万円未満。5万円から10万円未満。10万円から100万円以上、こういうような段階になっておりまして、その中のものを選んで、その金額によっていろんな特産品やら、そういうようなものを送っておる地域が結構あるのだということでございますが、チョット、大館市の中でおどろいたのは1万円から2万円未満の寄付に関して、20種類ぐらいの物をおくりますという表示がありました。その中でホウズキゼリー10個入れ、ホウズキゼリー5個入れ、ホウズキブッセ3個入れ、ホウズキ羊糞2個入れ、ホウズキカステラ1本。この内のどちらかを選んでくださいというふうなのがありまして、ホウズキというふうに出て、上小阿仁村の特産品でありながら大館市の方で、そういうようなものをPRしているのにびっくりしたところでございますが、悪いとか、いいとかというものではなくて、そういう意味からいきますと、やはりまだまだ他市町村と比較をしながら、考える余地もあるのではないのかなというふうな感じ取ったところでございます。

私も、40分という時間をとったのですけれども、このふるさと納税については、今、どのこうのというふうないうほどのものではございません。確か上小阿仁については、ふるさとの自然、計画を活かした事業等、これからふるさと伝統芸能文化の継承に関する事業、豊かな実りを活かした交流を通じて人々が元気になる事業、ふるさとの人々が安心、安全で安心して暮らせるための事業のどちらかを選択してくださいというような形になっております。

確かに、そのとおりだと思うのですけれども、ひとつのものをやるにあたってはかなりの気配りをしながら対応していかないといけないものが多々出てくるのではないかなという気がしてなりません。

時間が短すぎってしまったわけでございますけれども、そういう点を、村長のみならず職員の皆さんにも、もっともっと細かい内容を吟味していただきながらことを進めていくということ、ぜひお願い申し上げたいと思っております。

チョット早いですけれども、私の質問は、これで終らせていただきます。

ありがとうございました。